

我がふるさと・わが母校

第65回



新潟県立 柏崎高等学校

校歌

作詞 中西 利徳 先生
作曲 村山沼一郎 先生

- 一、米峰突兀雲を貫き
み空に糸がく玉芙蓉
あゝ麗しくあゝ高し
くらべても見む我が校や
- 二、怒濤澎湃天を衝き
逆巻き寄する日本海
剛毅勇健誠実の
我等が意気をこゝに見よ
- 三、義侠に勇み武に強く
威風天下をなびかせる
霜台公が旗あげし
仰げ米山その旧跡を
- 四、右文尚武勤儉に
重き責任尽くされし
樂翁公が旧治蹟
汲め白河のその流れ
- 五、霜凜烈の朝まだき
雪繚乱の夕まぐれ
守れや規律厳かに
踏みならしてよ我が健児
- 六、蛩を集め雪を積み
いやいそしみて身を照らせ
世は我が起つを待てるなり
何処飛躍の地ならざる
- 七、謳ひて祝がむ諸共に
葉守の神の柏木の
常磐堅磐に色そひて
根ざし揺るがぬ我が校や



スーパーサイエンス・ハイスクール指定を起爆剤として
右文尚武勤儉に

新潟県立 柏崎高等学校

校長 浅野 隆

柏崎高校は明治三十三年に開校され創立百十周年を迎える県下屈指の伝統校です。十年前新潟県で初めて普通科の中でコース制を取り入れ、一昨年度は文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けました。礼儀と規律を重んじる校風があり、生活指導がしっかりしていて、挨拶の良さは定評があります。輝かしい伝統を継承しながら常に時代を先取りしたシステムを取り入れ、「自ら変革する」高等学校です。

「大学受験は団体戦」の合言葉のもと、授業第一主義に徹し学習習慣なども取り入れ進路希望達成に向けて励んでいます。同時に部活動や学校行事もたいへん活発です。運動部では野球部が平成十五年に甲子園に出場したのをはじめ、これまでに陸上競技・水球・ハンドボール等毎年のようにインター

ハイや国体に出場しています。過去にスポーツ年間優秀校にも表彰されました。

文化部も全国高校総合文化祭に出場した美術部・書道部・写真部をはじめ英語部、吹奏楽などが高いレベルで活躍しています。

文武両道を目指す生徒が集まる地域の中心校で、目指すところは知徳体及び知情意のバランスのとれた教育です。二度の大地震による痛手も癒え、長期化する大不況下経済事情の極めて厳しい折次代の日本を背負う骨太の人材を育成すべくがんばっています。



校旗

沿革

柏崎は中越沖地震から三年。復興へ一歩ずつ、力強く前進しています。柏崎高等学校も本年十一月六日には創立一一〇周年記念式典を挙げるほか、記念事業を予定しています。

- 一九〇〇年(明治三十三年) 三月三十日 新潟県立高田中学校柏崎分校として開校。
- 同年 四月二十一日 授業開始。三学級(一三〇名)
- 一九〇一年(明治三十四年) 四月二十日 第一回創立記念式を挙げる、爾後この日を創立記念日とする。
- 一九〇二年(明治三十五年) 二月二十六日 新潟県立柏崎中学校と改称。
- 一九一〇年(明治四十三年) 四月二十日 創立一〇周年記念式挙行。
- 一九一五年(大正四年) 四月二十日 創立十五周年記念式挙行。
- 一九二三年(大正十二年) 五月五日 創立二十周年記念式挙行。
- 一九三〇年(昭和五年) 九月二十日 創立三十周年記念式挙行。



木造校舎

- 一九四〇年(昭和十五年) 九月二十三日 創立四十周年記念式挙行。
- 一九四八年(昭和二十三年) 四月一日 学制改革で新潟県立柏崎高等学校と改称。
- 同年 六月一日 定時制課程(夜間部)併設。
- 一九五〇年(昭和二十五年) 四月一日 男女共学開始。女子生徒三十七名入学。
- 同年 十月一日 創立五十周年記念式挙行。
- 一九六〇年(昭和三十五年) 十月九日 創立六十周年記念式挙行。

- 一九七〇年(昭和四十五年) 十月二十四日 創立七十周年記念式挙行。
 - 一九七八年(昭和五十三年) 六月二十五日 校舎全改築工事起工。
 - 一九八〇年(昭和五十五年) 十一月一日 創立八十周年記念式挙行。
 - 一九八七年(昭和五十七年) 三月三十日 校舎改築全工事竣工。
 - 一九九〇年(平成二年) 十一月五日 創立九十周年記念式挙行。
 - 二〇〇〇年(平成十二年) 十一月五日 創立百周年記念式典挙行。
- (平成二十二年度の学級数十七、生徒数六六四名)

文武両道 進学率は県内トップ

柏崎高校の校歌四番の冒頭に「右文尚武」と謳われているように、文武両道を目指した教育が行われてきており、それを目指す生徒が地域から集まってきています。(例えば、列車通学の生徒は、全体の約三割を占めています) 授業では平成十九年度に理数コースを開設し、二十年度には文

部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定(後述)されるなど、理数教育に力を入れています。

一方、部活動も盛んで、過去に何回かスポーツ年間最優秀校として表彰(男子の部)されるほか、十五年春の第七十五回選抜高等学校野球大会には二十一世紀枠として出場しています。昨年の「トキメキ新潟国体」での水球部の活躍も記憶に新しいものがあります。

こうした全てに一生懸命という文武両道教育により、今春の大学等進学率は九〇%を超えて県内トップの九〇・六%に達し、十九年の九〇・八%に次ぐ過去最高のレベルとなっています。これは校長、教職員の取組みと、卒業生、地域の人たちの後押しにより、県下屈指の伝統を作り上げ、それを引き継いでいるものと感じました。

大学受験は団体戦

高い進学率をもたらしている要因はいくつか挙げられます。因、筆者が校長先生からお聞きして強く感じたことは、「大学受験は団体戦」という言葉でした。生徒は毎朝八時二十分までに登校。毎日五十五分授業を六時間

(月・水はその後に総合的な学習(理数コースは授業)とロングホームルーム)。「授業第一主義」を基本にして放課後の部活動にも取り組む。

そういう毎日の中で五分でも十分でも時間が生まれれば即勉強するという「道場」のような引き締まった雰囲気为学校全体に広がっているようです。それが生徒のやる気の原動力となり、全体で学習する姿勢が生まれているということです。

鉄は熱いうちに打て、という言葉がありますが、生徒が家路に着くのは夜の九時になってしまふということ、こうした一日一日の積み重ねが新潟県はおろか日本・世界に貢献する人材を多く輩出しているのではないかと感銘しました。

スーパーサイエンス ハイスクール(SSH)

柏崎高校は、平成二十年四月一日、文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に全国で日比谷、高崎等一〇六校の一つとして指定されました。

これは、大学や研究機関と連携し、将来の国際的な科学技術系人

材の育成を目指し、先進的な理数教育の長期的な実施や、国際性を高める取り組みを進め、高校と大学の接続のあり方について共同研究を進めるものです。また、創造性、獨創性を高める指導方法、教材の開発等に取り組む研究開発指定校です。

指定期間は五年間、文部科学省の指導の下、従来の高校の教科の枠にとられない教育活動の展開を図るもので、そのために大型実験機器の購入など、生徒の学習・研究環境の整備が図られるというものです。

本年六月十二日(土)に柏崎市市民プラザにおいて、理数コースの三年生の皆さんがSSH課題研究発表会を開催しています。そのテーマをご紹介します。

(物理的分野)

- ①水ロケットの飛距離を伸ばすための条件
- ②プラズマの性質、プラズマの発光
- ③イオンクラフトの浮上条件
- ④人工オーロラの作成
- ⑤C#による図形の描画とメールの送信

(生物的分野)

- ⑥融合細胞の培養
- ⑦ベンジルアデニンの濃度差による

不定芽の形成の違い

⑧アフリカツメガエルの幼生に与える密度の影響

⑨柏崎中央海岸に生息するナミノリソコエビの生態

⑩Trichoderma reeseiによるアオサの分解バイオエタノールの生成に向けて

(化学的分野)

- ⑪鉛蓄電池の性能
- ⑫天然色素の分析
- ⑬色素増感太陽電池
- ⑭科学・電気分解を利用したメッキ

将来の研究者・指導者になり得るであろう人材の育成への取り組みに、期待が大きい。

○卒業された四名の方から、母校への思い出などをお寄せいただきました。

私の柏高時代

—忘れられない先生たち



新潟国際情報大学 学長
(前新潟県知事)
平山 征夫

受験に明け暮れたわけでもないのに、高校生活の記憶が少ない。柏高へは高下駄で通ったが、ある

時それを靴に変えるか学生集會で問題になったらしい。知事に当選した時「あの時議論を取めたのは君の発言だった。もともと政治家の調整力があつたのだよ」と妙なほめ方をされたが、私には全く記憶がない。他校の某女学生と遭遇しないか期待しながら通学していたのはおぼえているが…。

反面、個性的だった先生方のこととはよく覚えている。消防団活動の話しに熱心だったY先生、採集場所自宅と書いた寄生虫の標本を回すT先生、英語よりも社会主義の講義が多かつたS先生、誰よりも番長風だったK先生、そして私を合格させてくれた英語の高橋先生と日本史の橋本先生、痛くて温かかった拳骨の岡田先生、目が不自由な高橋先生の授業で早弁をしたら「目は不自由でも匂いで判る」と見つかつた。その受験向けの補習はすごかつた。橋本先生のガリ版資料の熱血授業は時間に終わらず、次の先生がいつも外で待っていた。先生が申し込み、私に受けさせたO社全国模試で何故か国語で一番になった。自分の名前が刻まれたトロフィーを嬉しそうに撫でておられた。私の柏高時代、華々しい青春ではなかつたが、先生方は華々しかつた。

転換期



柏中・柏高同窓会 会長
土田新吾

弊衣破帽的な伝統が消えかかった年に入学。制服制帽、足駄（高下駄）、腰に手拭いさげてという出で立ちだった。それなりにお気に入りの柏高に慣れ始めた頃、学校より靴を着用せよとの指示があった。ホンジツ只今よりとのお達しではなく全校生徒会で論議をした。先輩の生徒会役員が滔々と足駄の効用を述べ、靴着用への反論を展開した。堂々たる論法にさすが柏高生と畏敬の念を覚えたものである。事の顛末について定かではないがいつのまにか靴ばき登校になっていた。三年後に東京オリピック開催を控え、日本が再度世界の一流国入りを目指していた時代である。テレビや冷蔵庫が普及しはじめ生活スタイルも近代化しつつあった。毎年のように我が校からAFS（アメリカン・フィールドサービス）留学生を送り出し、自分達が世界とつながっていることを感じた。東京オリピックと同じ年に新潟国体も開催。水球やハンドボールは、柏高が中心校でありその活躍は目覚ま

しかった。ともかく学校そのものが生き生きとしていた。時代が大きく変わりつつあることを実感した高校時代であった。

柏崎高校時代の思い出



株式会社リコー
代表取締役社長・執行役員
近藤史朗

学校の東側の入り口に面した駄菓子屋のアンパンと牛乳を思い出す。母の用意してくれた弁当は二時限目の休み時間迄に食べてしまい昼はアンパンである。勉強は苦手、特に文系の科目は聞いていると気が遠くなり困った。そんなことで私の成績は一向に良くならなかった。それでも三年次は国立理系クラスにいた。同級生は秀才が多く彼等の努力には感心した。柏高は周辺の遠隔地から通学する純朴な仲間が多かった。私もその中の一人だった。当時の先生はとても熱心に授業に臨んでおられたし県下でも受験指導ではトップレベルだったように思う。私には忘れられない先生がいて今も時々お会いできるのは嬉しい。当時特別奨学生は試験が課せられた。私も当然試験を受けようとしたのだが成績が少し基準に満たず困って先生

柏崎高校時代の思い出



電気通信大学特任教授
小林孝嘉

に相談した。先生は「解った」と一言。もう四十三年も昔のことだから時効だが先生の配慮で受験できた。奨学金の返済は二十年にも及んだ。妻はもう一括で返したらと勧めたが自分の原点を忘れない為に毎年返済した。今も先生や育英会には感謝を忘れない。

私が柏崎高校に入学したのは昭和三十四年であった。この年の最も印象に残る出来事は、現天皇が皇太子として現美智子皇后とご成婚であった。丁度入学して間もない頃の四月十日に行われた成婚式には日本中が熱狂して歓迎した出来事である。私たちは、その年の体育祭に、新婚の担任の先生の奥様の衣装をお借りして、成婚式のまねごとを企画したことを覚えている。

私は二年生の夏休みの終わり頃から腰痛を思い高校を暫く休み、登校出来るようになってからも、体育の時間は見学のみで、高校生活で最も楽しい関西への修学旅行にも参加出来なかった。旅行後に

それまで以上に仲良くなっている人たちを見てうらやましい思いをしたものである。翌三十五年前半は六十年安保で日本中が大揺れに揺れ、新聞、テレビで毎日のように報道されるデモ等の記事・写真・ニュース画像を見て大学進学を東京の大学にと考えていた私は不安を覚えたものであった。最近柏崎に戻ることも少なくなりましたが、「米峰突兀雲を貫き…」と柏崎の背景となる霊山米山を唄う校歌を懐かしく思い出して口ずさむこともある。

十年位前から、同じ昭和三十九年の卒業生の中で東京に出てきている人を中心に、毎年一月に新年会を開き、当時に思い出し交流を深めている。企業、公務員、教育等々広い分野に活躍された方々も、この日は越後弁で遠慮の無い会話が飛び交い大いに盛り上がっている。

取材後記

「石黒です」と地元の人へのあいさつに「柏崎出身ですか」と返された。柏崎にゆかりのある姓のように。伝統と実績に培われたハイレベルの教育を受けている生徒達の前途にエールを送りたい。

（本部・広報委員 石黒勝夫）

地区人会・郷人会だより

東京中之島会創立十五周年記念総会

◎ 金安 藤之輔 会長

☎ 〇四二一五七二一三六六六番

東京中之島会の創立十五周年記念総会が、五月二十三日(日)「アルカディア市ヶ谷」において開催されました。午前十一時中村企画委員長の司会で、記念総会が開始となりました。金安会長より「東京中之島会

事に入りました。藤田事務局長から平成二十一年度事業報告、決算報告がありました。会の一年間の活動が詳しく報告され、東京中之島会の動きが良くわかりました。吉水監査委員から帳簿等の会計処理が間違いなく行われているという監査報告があり承認されました。

若月広報委員長の開宴のことばで懇親会が始まり、アトラクションとして雪之会中之島所属の浅野雅子・大竹鈴子・本間久子による「しげさ節」「関東一本メ」「戸山節」などが披露されました。中村広隆企画委員長による民謡「秋田大黒舞」が歌われ会場は楽しい雰囲気になりました。



東京中之島会制作大鳳

も設立十五年を迎えました。特に最近ふるさと中之島は、大水害、大地震と色々なことがあり、そのたびに皆様には大変お世話になりました。今日ご出席いただきました東京新潟県人会の高橋さんは、募金等で大変ご苦労されました。十五周年を記念し、ふるさと中之島とこれからも一緒に力を合わせていただきたいと思っております。」と挨拶がありました。

引き続き平成二十二年度の事業計画と予算案が提案され満場一致で承認されました。その中で、これからの一年間の事業の内容と共に、現在会が抱えている会員減少という課題に対し、会員の増強を強く訴えられました。

続いて小黒中之島支所長の力強い発声で乾杯の音頭があり、懇親会に入りました。あちこちで飲みながら食べながら一年ぶりに楽しそうに語り合っており、各テーブルでの記念撮影の光景が見られました。カラオケも始まり、「誰か故郷を思わざる」「下

にぎやかな状態でした。金子中之島地域副委員長の発声で万歳三唱、佐々木広報副委員長の閉宴のことばで来年の再会を誓い合いお開きとなりました。

続いて来賓の東京新潟県人会副会長高橋様、長岡市政策秘書監佐々木様、長岡市市議会議員松井様からご祝辞をいただきました。

十五年目の節目の年にも新たな二十二年に向け、新会員の獲得が急務



15周年記念総会～主催者

(東京中之島会広報委員

大竹 昭三、山田 金栄 記)

臥龍同窓一四〇名集う！村松高校東京同窓会 第五十三回定期大会

◎鈴木 多喜男 会長

☎〇四四―八五四―八六三五番

七月十一日正午から、九段下のホテル グランドパレスにおいて第五十三回定期大会を開催した。来賓として母校から小形賢治校長・桜井亮明先生（就職担当）、同窓会本部から相田豊会長・阿部律雄副会長・事務局三名ほかを迎え、石黒勝夫・林信子両幹事の司会で進行。

石黒四郎実行委員長の開会のことばで総会の第一部の幕を開け、鈴木多喜男会長の謝辞と挨拶。相田同窓会長からは来年の母校創立百周年記念誌への、小形校長からは厳しい高卒予定者の就職への、それぞれ支援のお願いがあった。



村松高校東京同窓会 第一部総会

この日、会場では同窓会が協力した「就活パス」に関連してNHK TVが取材していた。来賓あいさつの後、総務・



ソプラノ歌手・丹藤亜希子さん

財務・広報の各委員長からの一年間の活動報告を承認。最後に役員改選が行われ、鈴木会長が満場一致で承認され三期五年目に入った。

第二部の丹藤亜希子（阿賀町出身）ソプラノ・リサイタル（ピアノ石野真穂さん）は、真近で見る圧倒的・安定感ある歌唱力と存在感ある舞台姿に、参加者は感動。

第三部の懇親会は旧中卒でただ一人出席の佐伯益一前会長の乾杯の音頭でスタート。恒例のお楽しみ抽選会に入って会も最高潮に。最後は篠川恒夫幹事の手締めで閉会。その余勢を駆っての二次会も大いに盛り上がった一日でした。（文責 石黒 勝夫、写真 大橋 貞夫、木村 寿一）

平成二十二年 度 佐渡総合高校同窓会東京会の集い「総会懇親会」

◎尾田 喜作 会長

去る七月二十四日（土）午後一時から（財）東京新潟県人会館にて表記の集いを開催。

朝から猛暑の中、遠路佐渡からは川上克巳同窓会長、山岸耕一学校長、同窓会事務局担当の羽二生善國先生のご来臨を頂いた。

総会の司会は菊池雅美。まず尾田会長が暑いなかを出席された来賓と会員へお礼の挨拶。

来賓挨拶では川上同窓会長が十月の高校創立一〇〇周年事業の概要等を説明。次に四月に赴任された山岸高校長が、佐渡総合高校の個性あふれる六系列で充実の高校生活の内容、



前左列から3人目尾田会長、順に川上同窓会長、山岸校長、羽二生先生、川村先輩。

学科、教育課程の特色、学校の対応や活動状況を説明。事務局の羽二生先生は、十月十六日に佐渡で開催される創立一〇〇周年記念事業実行委員会の内容を報告された。

このあと議事に入る。

尾田会長が議長となり議案の審議。第一号（第四号議案も原案どおり承認。第五号議案「役員改選」で次期会長について諮ったところ、会場から留任の声があり、尾田会長の再任が拍手多数で承認され、議事終了。

懇親会の司会は石塚一昭に交代。まず東京新潟県人会川村敏夫副会長（先輩）から、東京新潟県人会一〇〇周年大交流祭へ会員多数の参加を呼びかけられて乾杯の発声。和やかな雰囲気の中、母校の情報や意見交換、カラオケに興じているうちに時間が経過。いつもの佐渡おけさ踊りは省略。今年始めて参加した元田勇夫の発声で万歳。元気で再会を約して散会した。

（石塚 一昭 記）

人となり

「木暮会長は自分にきびしく、他人にやさしく、会員一人ひとりの健康状態まで把握している面倒見のよい姉御です。また、旅行好きで唄はプロ級。持前の明るさや前向きな姿勢は苦勞をバネに、何事も一生懸命に取り組むその生き様が人の心を動かします」と、富樫庄造（公員）さんが語って下さいました。

姉御とも呼称されている木暮良江会長さんにお伺いしました。

―会の概要などについて―

大正十四年創立。現在の会員数一二〇名。私は第十四代目の会長として就任しました。主な年間行事は新年会、総会、ふるさと訪問旅行など。各行事には四、五十名の会員が参加しています。ご多分に漏れず当会も高齢化が進んでおり、その対策、活性化が重要な課題になっていきます。また、活動が少なくないため、県人会本部へ

の協力が思うようにできないことが残念です。

―生立ち、そして今―

昭和十四年一月、南魚沼市（旧、塩沢町）に生まれ、悲惨な戦中戦後の貧しい時代背景の中で育ちました。就職で上京し数年後に結婚。働きたがら四人の子供達を育てました。職業の変遷はあるものの、二十二年間学校給食に従事した後、共同で立ち上げた

「高齢者福祉施設の厨房」を営んでおります。思い起せばこれまでさまざまなことに遭遇してきまし

た。…が、それらを難儀だと思えばそうなりません。これが私に与えられた人生の通り道」と受けとめれば、使命のあることに感謝の気持と意欲が湧いてきます。

今は八十一歳の主人と二人暮らしですが、日常生活の役割が逆転して家事一切を主人が担当し、私を職場へ送り出してくれています。また、九



尾久新潟県人会 会長 木暮 良江さん

人の孫に恵まれ子供達の家族との交流は楽しく有難いものです。「今が一番幸せ」な日々をすごしています。

―印象深い思い出は―

学校給食に従事していた頃、荒川区学校給食研究会会長、東京都学校調理師会理事長を務めました。当時「給食を通し子供達（生徒）にとって何が大切か、おいしい給食を作っ

てあげたい」と日々研究を重ね、研究発表にも取り組んできました。全国で初めてアルミの食器を陶器に変えたり、給食を子供達と一緒に作って食べる機会を試みるなど、次々と変革を図り子供達の満足そうな笑顔をみては、その進化を共に喜び合ったものです。このような研究から「文部大臣賞」を受けることとなり、表彰状を見ると研究に没頭していた頃を懐かしく思い出します。

―声を大にメッセージしたいこと―

ご存知の方も多いと思いますが、ある方から教わったユニークな唄をメッセージといたします。

ボケない小唄

一 風邪をひかずに 転ばずに 笑い忘れず よくしゃべり 頭と足腰 使う人

二 元氣ある人 ボケません スポーツカラオケ 囲碁俳句 趣味のある人 味もある 異性に関心 持ちながら 色氣ある人 ボケません

三 年をとっても白髪でも 頭はげても まだ若い 演歌うたって アンコール 生きがいある人 ボケません

ボケます小唄

一 何もしないで ぼんやりと テレビばかりを 見ていると のんきなようでも 年をとると いか知らずに ボケますよ

二 仲間もたずに 一人だけ いつもすること ない人は 夢も希望も 逃げて行く 年もとらずに ボケますよ

三 旅行も酒も 嫌いです 歌も踊りも 大嫌い 金とストレス ためる人 ひとの二倍も ボケますよ

ライフスタイルのご参考になれば、

（広報委員 田尻 加代子 記）



尾久新潟県人会ふるさと訪問旅行 平成22年6月27-28日 月岡温泉 ホテルニューあけぼの 玄関に於て

市町村だより あれこれ

新潟県下の市町村広報その他から⑨⑤

新潟明訓・全国レベルの健闘

「新潟の強さは本物だ」

そう思わせてくれた新潟明訓高校野球部（新潟市）の奮戦は、今年もまた甲子園球場を沸かせ、昨年夏の日本文理高校の準優勝に続き、全国野球ファンの注目を集めた。

第九十二回全国高校野球選手権大会は、猛暑真つ盛りの八月七日開幕、大会七日目の八月十三日（二回戦）から初めて登場した新潟明訓高校は京都外大西高校（京都代表）と対戦、田村昌大主将のタイムリーなどであげた先制点を、池田駿一神田健太両投手の好リレーで守りきり、五対三で快勝。続いて、大会十日目の八月十六日、福岡代表・西日本短大付属高校と三回戦を戦い、六回間藤捕手の適時打でもぎ取った虎の子の一点を池田一神田の左右リレーで完璧に守りきり一対〇。見事、前年の日本文理に続いて県勢として二年連続の

八強入りを果たし、新潟明訓として甲子園通算六勝目を挙げた。



初の8強入りを決め、歓喜する明訓ナイン（写真提供：新潟日報）

しかし、十三日目（八月十九日）の準々決勝では、関西の強豪報徳学園高校（兵庫代表）に反撃が今一歩及ばず、二対二で惜敗。県勢として二年連続の準決勝進出は成らなかつた。

だが、相手の報徳学園は、春夏合わせて全国制覇三回の強豪校であり、この後、優勝した沖縄・興南高校ともあわやの大熱戦を演じたことを考えると、新潟県高校野球の実力がいよいよ全国レベルに近づいていることを十分に感じさせるもので、大きな拍手を贈りたい健闘であつたと思う。

ほかに野球の話題では、八月二十七日（金）に開幕した第八十一回都市対抗野球大会にバイタルネット（新潟市）が県勢としては四十年ぶりの出場を果たしたが、一回戦（九月一日）の大和高田クラブ（奈良県大和高田市）に延長十一回、惜しくも一対〇で敗れた。

世界一の大蛇パレード

ギネスブックにも登録された「えちごせきかわ大したもん蛇まつり」が今年も盛大に行われ、この模様はテレビの全国ネットでも伝えられた。まつりは、八月二十七日（金）から

二十九日（日）までの三日間で、まずこのまつりの起こりとなつた八・二八水害殉難者供養祭（湯沢観音八公園）から始まり、安全祈願祭のミニ大蛇パレード、灯ろう流し（荒川高瀬河



世界一の大蛇さま、「お成りいー」

原）、二日目は、よさこいソーラン、花火大会、大盆踊り大会が行われて、いよいよ最終日の二十九日（日）には、朝九時半垂水の里をスタートとする呼び物の大蛇パレードが始まつた。

およそ五百人の担ぎ手が全長八十二・八メートルの大蛇を担いでゴールの村役場までの約六キロをパレード。沿道の村民や観光客が喚声を挙げてこれを迎えた。

最近では、活字や写真、電波などによつてこのまつりの奇抜さや雄大なスケールが伝えられ、それに魅せられて訪れる人も多く、県北の小さな村・関川村は、ギネスブック世界一

の認定を得た大蛇さまとともに最高の盛り上りでクライマックスを迎え大いに沸き返った。

「弥彦山も世界一？」

越後一の宮弥彦神社境内にあるロープウェー無料送迎バス乗り場に登場した大きな看板が話題になっている。

そこには、緑一杯の弥彦山山頂へ向かうロープウェーが写されていて、なんとその上部には東京スカイツリーの完成形が描かれている。

これは一体どういうことかといえ



スカイツリーの高さを山上でどうぞ (写真提供：新潟日報)

ば、「弥彦山は標高六三四メートルです。東京スカイツリーと同じ天空の高さを体験してください」という文言にあるように、これから日本中の関心を集めるに違いないスカイツリーにあやかっ、ぴったりその高さが同じというラッキーを観光面で生かして行こうという大アピール作

戦第一弾なのである。

弥彦山は現在でもトレッキングブームで活況を呈しており、昨年は三十九万人が登ったと言われるが、弥彦村（大谷良孝村長）では観光協会（馬場彰二会長）とタッグを組んで、おらがお山の有難さを活用しよう、と、二〇二二年の東京スカイツリー開業に合わせたイベント開催までも考慮中である。

燕は飛ぶ、町田からも

東京都の南端にあつて、むしろ神奈川県へ進入しているような立地の町田市は、古くから「日本のシルクロード」の要衝であり、主要産地であった長野県や山梨県から運ばれる生糸は八王子から町田を経て横浜へ向かった。従って、ここを行き交う商人たちの数はおびただしいもので、町田は商業地として繁栄を迎えた。

その町田市商店街の一角（町田駅から徒歩六分）に燕市のアンテナショップ「えちご燕物産館・町田店」がある。

今年三月のオープンだから、まだ半年ちょっとしか経っていないが、その近くの商店街を「仲見世商店街」



「ぼっぼ町田」の1階が「えちご燕物産館」

と呼ぶように、商店と商店がびっしりと軒を連ねた活気のある好立地で燕市の誇る洋食器をはじめとする産品の販路拡大、情報発信の拠点としての将来性は高い。

そこを、四月に就任したばかりの鈴木力市長が東京への公務のたびに訪れているのは、その発展性に着目しているからで、七月には町田市の石阪市長を訪問、「町田・燕地域活性化プラットフォーラム会議」の設置を提示した。

更に、町田商工会議所の平本会頭や佐藤専務理事とも会談して、すで

に実務者同士による両市の交流案が検討に入っており、早々に実施される。まずは、九月下旬「田んぼアート」稲刈りに町田市の子どもたちを招待、十一月には「まちだ産業観光まつり」「町田市農業祭」への参加が進められている。



石阪市長（左）に説明する鈴木市長（右）

さきに鍛金の玉川宣夫さんが伝統工芸技術者として人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定され、脚光を浴びたばかりの「ものづくり」のまち燕市は、国内外へ二段ロケット発射の勢いを見せていると言っている。

（広報 池田 孝一郎）